

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No316

(中教審教育課程企画特別部会)

ふり返り) 次期学習指導要領の改訂審議第1回を終えて

(2025年1月30日開催)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。



TOP> 新着記事> Topics> 中教審> 中教審教育課程企画特別部会が初会合

中教審教育課程企画特別部会が初会合

2025年1月30日

NEWS

中教審



印刷する

文科省は30日、中央教育審議会の教育課程企画特別部会の初会合を開いた。学習指導要領の改訂について審議する。主査に千葉大学の貞広斎子教授が就任した。京都大学大学院の石井英真准教授は「改訂のときは新しいことや変化に目が行きがちだが、現行学習指導要領の趣旨を再確認していくことも必要だ」と指摘。その上で、学習内容の重点化・構造化を進めていき、日常的に使えるものにしていく必要があると訴えた。

学習指導要領、改定の議論始まる 秋までに基本方針—中教審

時事通信 社会部

2025年01月30日15時24分 配信



地球一周の船旅 2026年12月出航

株式会社ジャパングレイス [詳細 >](#)

学習指導要領改定の諮問を受けた中央教育審議会（文部科学相の諮問機関）の教育課程企画特別部会の第1回会合が30日、開かれた。審議会は2026年度中の答申を目指しており、全面改定に向けた議論が始まった。

[デジタルも正式教科書に 「代替」扱い見直し—文科省検討](#)

特別部会では、新しい要領の基本的な方針や、各教科・科目を横断する方向性を今秋までにまとめる。その後、教科・科目ごとに設置する専門部会での議論に移行する。

特別部会の主査に貞広斎子・千葉大副学長が就任。委員からは「カリキュラムを柔軟化しつつ、学びの質を保証しなければならない」「生成AI（人工知能）が発展する中、学校の役割を再考すべきだ」などの意見があった。



溝上の発言（補足）

- 現行の学習指導要領を徹底的に基礎として
- 個別最適な学びの位置付け
- 働き方改革、現場への裁量拡大
- 高校 探究 情報活用能力

個別最適な学びの充実



2024年6月10日（金）

今後の教育課程、学習指導、学習評価等の在り方に関する有識者検討会@文部科学省

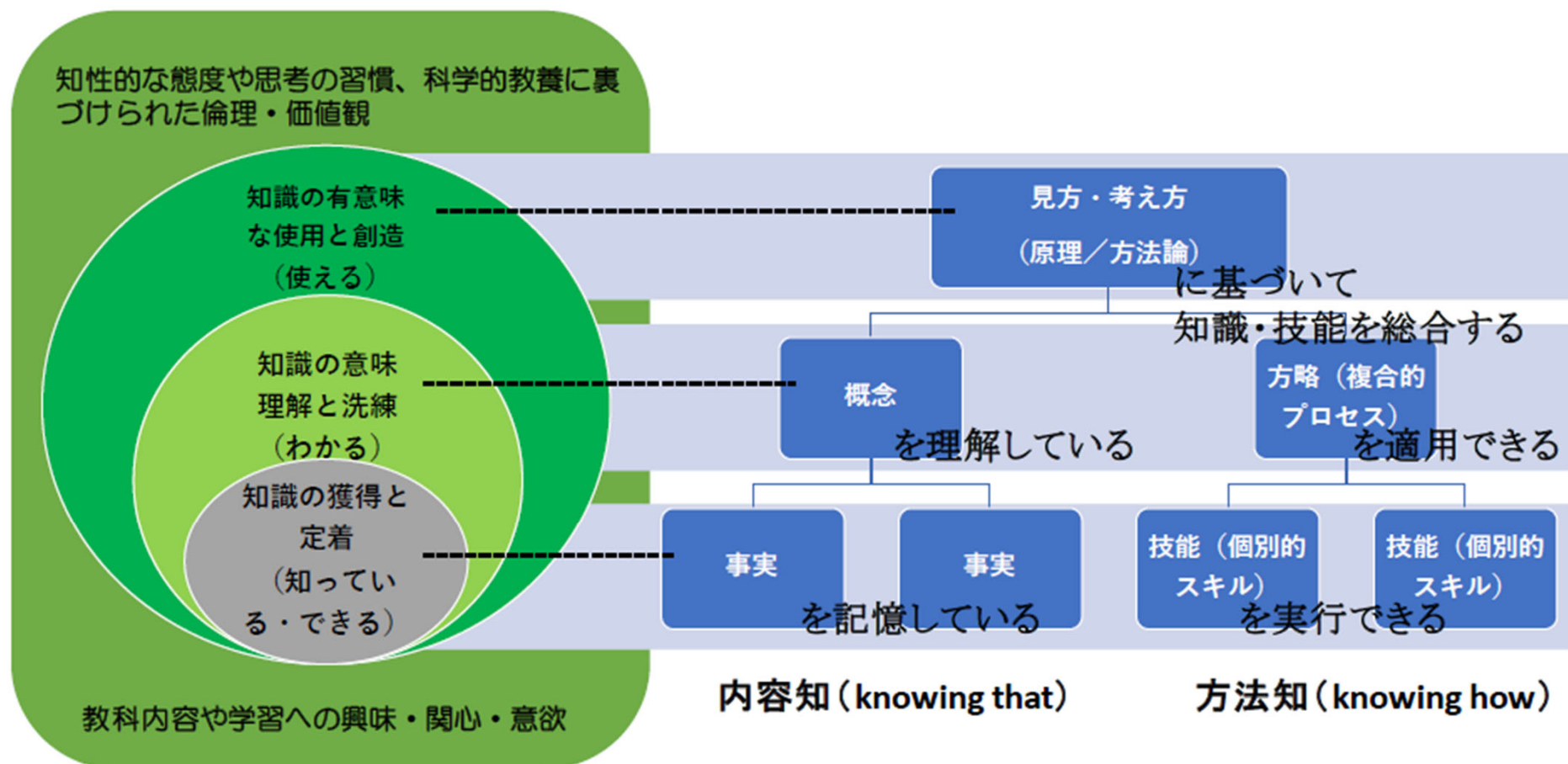


図1. 学力・学習の質的レベルと「知の構造」 (出典：石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房、2020年。)

ビッグアイデアで学習内容の構造化

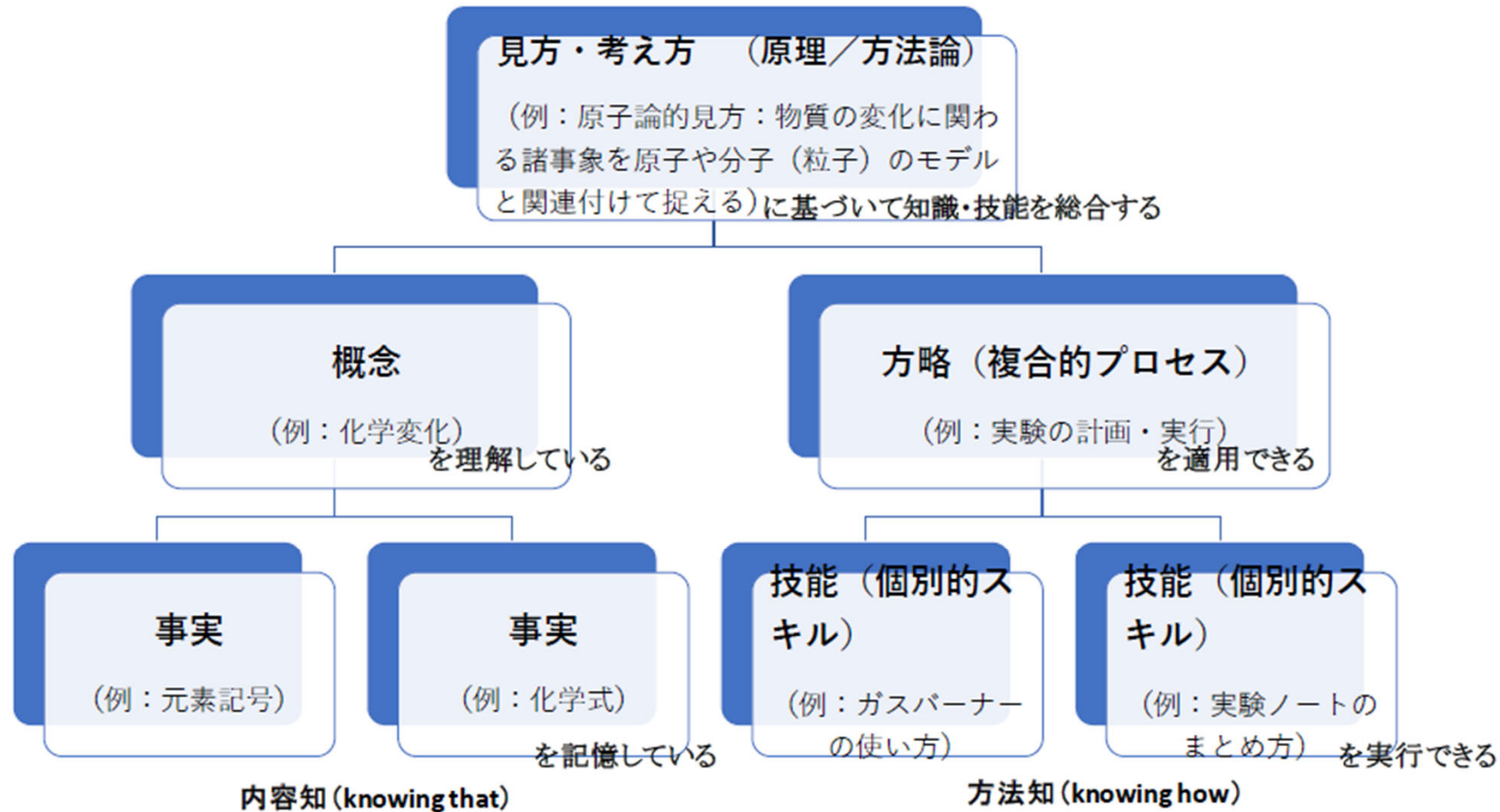


図2. 「知の構造」を用いた教科内容の構造化

(出典：西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也2013『教職実践演習ワークブック』(ミネルヴァ書房)の西岡作成の図に筆者が加筆・修正した。)

溝上の発言（補足）

- 現行の学習指導要領を徹底的に基礎として
- 個別最適な学びの位置付け
- 働き方改革、現場への裁量拡大
- 高校 探究 情報活用能力